

デーリー東北

2022年(令和4年)10月19日(水曜日) (16)

地域と共に歩む
八戸工業大創立50周年

1972年1月29日、当時の文部省から八戸工業大の設置許可が下りた。八戸市が64年の新産業都市の指定を契機に発展を遂げる中、市民が待ち望んだ誕生だった。

同大のルーツは漁業関係の無線通信を担う人材を育成するため、56年に設立した八戸高等電波高までさかのぼる。同市に多くの企業が進出する中、工業分野で高度な人材が求められていたため、育成する大学の設立構想が同高で練られた。産業界や自治体などの要望もあり、設立の動きは加速。大学設置審議会が当時の文部相に新設を認めると答申したのは71年だった。本紙では「八戸工業大学が誕生」「市発展へ大きな期待」などの見出しと共に喜

① 創立

市民が待ち望んだ大学



八戸工業大の開学式。地域の要望を受け、工学系大学の歩みが始まった＝1972年6月（同大提供）

びを報じている。こうして72年に同大は青森県初の工学系4年生大学として開学。工学部に3学科を置き、約180人の入学者が学生生活をスタートさせた。

初代学長の故小和田武紀さんは、知識や技術の習得を通して学生の人間形成を掲げていた。当時の学生生活について、同大同窓会会長で2回生の福土信雄さん(67)は「先生との垣根は低く、アットホームだった。親身に相談に乗ってくれた」と振り返る。今でもこの雰囲気は学内で引き継がれている。

同大は初代学長の精神を原点に発展を続けてきた。80年代は機能強化や拠点整備に取り組み、95年には北東北3県で私学唯一の大学院を設置した。2005年は時代のニーズに対応し、モノに付加価値を与え、感性デザイン学部が誕生。日本技術者教育認定機構(JABEE)に認定されることで、学生教育システムを構築した。

坂本禎智学長は「50年間、地域が望んだ人材育成に取り組んでこれたのではないか。今後さらなる教育と育成に取り組みたい」と力を込める。

◆ 今年、創立50周年を迎えた八戸工業大。地域と共に発展を続ける同大の歩みを振り返る。
(藤村大地)